

共用品推進機構だより 2020年7月16日 (1)

目次

(1) 共用品推進機構関連記事

- ▽ 『U&C 6 giugno 2020』(イタリア誌)に執筆しました／星川安之
- ▽ 「オンラインイベント『本の街で、こころの目線を合わせる』のご案内」
- ▽ 「共用品ニュースを更新しました！」

(2) 賛助会員ニュース

- ▽ 「ともに遊ぼう共遊玩具 30年 そのおもちゃ、優しい 不自由を忘れ楽しめる工夫／タカラトミー」
- ▽ 「ともに遊ぼう共遊玩具 30年 「誰もが使いやすい」浸透 家電、日用品にも隠れた配慮／タカラトミー」
- ▽ 「おもちゃの説明書 テキスト・音声版で配信 15社超が「共遊」に理解／タカラトミー」

(3) 製品関連記事

- ▽ 「歩行訓練時の介助者負担軽く／オージー技研」

(4) サービス関連記事

- ▽ 「電動車いすで移動楽しく／ウィル」

(5) その他、各種関連記事

- ▽ 「点字翻訳システムで視覚障害者の“読む”にまつわる課題を解決／東京工業高等専門学校」

(6) 新刊紹介

- ▽ 『ぼくらしく、おどる義足ダンサー大前光市、夢への挑戦』

▽『高次脳機能障害のある方と働くための教科書』

(1) 共用品推進機構関連記事

▼『『U&C 6 giugno 2020』(イタリア誌)に執筆しました/星川安之』

イタリアの「U&C 6 giugno 2020」誌の特集記事「Le Olimpiadi si fermano, la normazione no」に、専務理事の星川安之が「東京オリンピック・パラリンピックに向けての動き」を執筆しました。

JIS T 0103の規格に基づいたコミュニケーション支援ボードの活用、UDタクシーなどアクセシビリティに関するさまざまな取り組み、シャンプー容器をはじめとした日本のアクセシブルデザイン等について、豊富な写真とともに紹介しています。

▼「オンラインイベント『本の街で、こころの目線を合わせる』のご案内」

第3回 2020年7月17日19時開始(約1時間) 鈴木慶太さん×借金玉さん
鈴木慶太：発達障害の人向けの就労支援を行う、(株)Kaizen 代表取締役
借金玉：『発達障害の僕が「食える人」に変わった すごい仕事術』の著者

第4回 2020年7月18日19時開始(約1時間) 綿貫愛子さん×藤野博さん
綿貫愛子：臨床発達心理士で、AS(自閉スペクトラム)当事者
藤野博：東京学芸大学教育学研究科教授

・主催：神保町ブックセンター、合同出版 共催：共用品推進機構

・当日はzoomを使用。ゲストもMCも参加者もそれぞれの場所から参加。

・チケット購入者にはメールでご案内および会場URLをお送りします。
ご自宅などからスマホ・PCなどでお楽しみください。

・10名限定でリアル会場チケットも用意しています。

※お申し込みの際に選択。(第3回はリアル会場チケット完売)

- ・イベント最後に、ゲストのサイン本販売のご案内をいたします。
この機会にお求めください。

【イベント詳細 & お申し込み受付サイト Peatix】

第3回 <https://kokoro-2nd-3.peatix.com/>

第4回 <https://kokoro-2nd-4.peatix.com/>

【ゲストへの質問を受け付けます】

当日質疑応答の時間を設けます。

予約受付時または、当日 zoom 上から質問をお寄せください。

(すべての質問にはお答えいたしかねます)

【イベントのお問い合わせは 合同出版へお願いします】

合同出版株式会社 (原則リモート勤務実施中)

メール：info@godo-shuppan.co.jp

Web サイト：<https://www.godo-shuppan.co.jp/>

TEL: 03-3294-3506

▼「共用品ニュースを更新しました！」

- ・東京新聞に共遊玩具特集

共用品ニュース <https://www.kyoyohin.org/blog/>

(2) 賛助会員ニュース

▼「ともに遊ぼう共遊玩具 30年 そのおもちゃ、優しい 不自由を忘れ楽しめる
工夫／タカラトミー」

みんなが「共に遊べるように」と工夫された共遊玩具の誕生から今年で30年。1990年の誕生以来、4200点以上が認定されている。パッケージに表示される盲導犬とうさぎのマークがその証し。毎年発表される日本おもちゃ大賞にも共遊玩具部門があり、各メーカーが開発を競い合う。

第1号を世に送り出したタカラトミー(東京都)では、全盲の高橋玲子さんが

開発に携わってきた。目や耳が不自由な子どもみんなと楽しく遊べるように、当事者として製品に工夫を凝らしてきた。こうした工夫は社内ルールにも影響を与え、今では品質規定に「目の不自由な人も安心して遊べるように」と盛り込まれている。

気掛かりもある。タブレット型のおもちゃが人気になり、形あるものが画面の中に封じ込められるようになってきたのだ。共遊玩具と歩んできた高橋さんも、タブレット型のおもちゃが増えている課題に向き合っている。

(東京新聞 6月3日 24面より抜粋)

▼「ともに遊ぼう共遊玩具 30年 「誰もが使いやすい」浸透 家電、日用品にも隠れた配慮／タカラトミー」

おもちゃ業界で拡大した「共遊」のイズムは他の業界にも波及し、誰もが使いやすい商品を作ろうとする機運を高めた。シャンプーボトルに刻まれたギザギザ加工、缶ビールのふたに付けられた「おさけ」の点字は、目が不自由な人でも区別できるようにと考案された。

共遊玩具の概念がなかった1980年に、トミー(現タカラトミー)の新しい部署「ハンディキャップ・トイ研究室」に配属された新入社員は今、共用品推進機構の専務理事としてさらなる普及に力を入れている。

(東京新聞 6月4日 20面より抜粋)

▼「おもちゃの説明書 テキスト・音声版で配信 15社超が「共遊」に理解／タカラトミー」

視覚と聴覚に障害のある子供も楽しめるよう工夫を凝らした一般向けの玩具「共遊玩具」。タカラトミー(東京都)ではネット上に、玩具の説明書を掲載したり、遊び方を解説するカタログを配信したりしている。

近年、おもちゃの性質の変化や製作費などのコストの都合で、おもちゃそのものに五感で分かりやすいような効果的な工夫を凝らすことが難しくなってきた。そこで試みたのが、機能の複雑な玩具を言葉だけで伝わるようにした「テキスト版取扱説明書」と、玩具の実際の音を流しながら形や遊び方を解説する「音のカタログ」だ。「音のカタログ」では、視覚障害児が楽しめる物を中心に紹介している。動画の時間は短いもので約6分、長いもので約20分。YouTubeからも動画を見つけられるほか、サイトにはテキスト版取扱説明書と商品サイトへのリンク先も掲載している。

(点字毎日 6月4日 3面より抜粋)

(3) 製品関連記事

▼「歩行訓練時の介助者負担軽く／オージー技研」

オージー技研(岡山市)の使用者の事故軽減と介助者の負担も軽減する歩行訓練機器用の上部支持枠「免荷(めんか)リフト付きオーバーヘッドフレーム」。標準装備の免荷リフトとハーネスで、膝折れや共倒れなどの転倒事故を防止し、安全な歩行訓練を可能にした。使用者の恐怖心を軽減し、介助者の身体的・精神的負担も軽減する。

(日経MJ 6月17日5面より抜粋)

(4) サービス関連記事

▼「電動車いすで移動楽しく／ウィル」

羽田空港で7月、自動運転機能を備えた電動車いすが乗客を搭乗口まで運ぶ、世界で初めてのサービスが始まった。車いすを開発したのは横浜市の新興企業、WHILL(ウィル)。

(日経産業新聞 7月9日11面より抜粋)

(5) その他、各種関連記事

▼「点字翻訳システムで視覚障害者の“読む”にまつわる課題を解決 ／東京工業高等専門学校」

国立東京工業高等専門学校(八王子市)の学生たちが、印刷された文字を点字に、逆に点字を文字に変換する機能のほか、点字をスキャンしてインターネットで送信する機能を持つ自動点字相互翻訳システム「:::doc(てんどっく)」を開発した。

視覚障害者からの相談をきっかけに開発され、コンピューターのプログラミングを競う「全国高等専門学校第30回プログラミングコンテスト」で最優秀賞および文部科学大臣賞に輝いた。

(情報通信研究機構 情報バリアフリーのための情報提供サイトより)

記事 URL

<http://barrierfree.nict.go.jp/topic/service/20200422/index.html>

(6) 新刊紹介

▼ 『ぼくらしく、おどる義足ダンサー大前光市、夢への挑戦』

リオパラリンピックの閉会式など、世界の舞台で活躍する義足ダンサー、大前光市。プロダンサーとして活動を始めた24歳のとき、交通事故で左足のひざ下を切断し…。夢をあきらめず、努力し続けるダンサーの物語。

著：大前光市(おおまえ・こういち)

絵：今井ヨージ(いまい・よーじ)

発行：学研プラス (ヒューマンノンフィクション)

本体価格：1,400円(税別)

ISBN：978-4-05-205138-8

▼ 『高次脳機能障害のある方と働くための教科書』

高次脳機能障害の定義とその特性について説明。さらに高次脳機能障害のある方の就労の場面で起こりうる困りごとの理由と、対応方法、就労支援機関の取り組み事例などをわかりやすく紹介する。

著：石井京子(いしい・きょうこ)池嶋貫二(いけしま・かんじ)

発行：日本法令

本体価格：2,800円(税別)

ISBN：978-4-539-72741-6

(編集後記)

コロナ禍で、外出等の自粛、マスク着用、非接触、非接近、消毒の徹底などの規制と共に、その中で何ができるかを、模索しながらの4カ月でした。

遠い存在だったテレワークとの距離が一気に縮まり、会議と言えば、Web会議を指す割合が高くなりました。Web会議では、交通機関を使い会議室に集まるこれまでの会議と比べ、会場までの時間や物理的障壁、座る位置などは、合理的と感じます。

けれども、新たな生活の基準案は、今までの積み上げてきたバリアフリー・アクセシビリティが、すっぱり抜け落ちていたりします。誰も経験したことのないコロナ禍という難題、多くの人の叡知が必要と改めて思います。

本日から隔週で、共用品推進機構だよりを、再開させていただきます。

(星川安之)

共用品推進機構公式サイト <https://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース <https://www.kyoyohin.org/blog/>

共用品推進機構公式 Facebook <https://www.facebook.com/kyoyohin/>